

神奈川県微生物検査情報

<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県衛生研究所

第 156 号

(2005年11月)

平成 18 年 1 月 31 日発行

話題：インフルエンザ今年の流行はAソ連型？A香港型？

- ・ インフルエンザの患者発生
- ・ インフルエンザの流行タイプの移り変わり
- ・ 今年の流行タイプは？
- ・ インフルエンザは電車に乗ってやってくる？

ヒト由来細菌情報

定点医療機関から依頼のあった感染性胃腸炎患者、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者からそれぞれ病原性大腸菌、A群溶血性レンサ球菌が検出された。また、県内医療機関から受領した咽頭拭い液からマイコプラズマ ニューモニエが検出された。

食中毒関連調査でカンピロバクター ジェジュニーが検出された。

食品由来細菌情報

病原菌は検出されなかった。

環境由来細菌情報

県内定点 10 カ所の河川水から O1 & O139 以外のコレラ菌、サルモネラが検出された。

浴槽水の検査でレジオネラ ニューモフィラが検出された。

集団発生情報

県域での発生

(細菌)

- ・ 食中毒の集団発生で従業員並びに患者便からカンピロバクター ジェジュニーが検出された。
- ・ 有症苦情集団発生事例で患者便からサルモネラが検出された。

(ウイルス)

- ・ 食中毒様胃腸炎の発生は 4 事例あり、ノロウイルスが検出された。
- ・ 感染性胃腸炎の発生は 1 事例あり、ノロウイルスが検出された。

県域外発生関連調査

- ・ 他の自治体で発生した食中毒様胃腸炎 1 事例の検査依頼があり、ノロウイルスが検出された。

ウイルス情報

検査定点からの依頼によるもの

11 月に採取された検体から検出されたウイルスは、RS ウイルスが 1、ムンプスウイルスが 1、アデノウイルス 3 型が 1、アデノウイルス 40/41 型が 2 であった。

リケッチア情報

検査定点以外の医療機関からの依頼によるもの

つつが虫病様患者 12 名からオリエンチア ツツガムシが検出された。

(微生物部・地域調査部)

話題

インフルエンザ今年の流行はAソ連型？ A香港型？

【インフルエンザの患者発生】

昨シーズン（2004/2005）は、注意報の基準値（定点あたり報告数：10）を超えたのが4週目（1/24～1/30）と遅かったのですが、その後の定点あたりの報告数はうなぎのぼりとなり、7週目（2/14～2/20）でピーク（定点あたり患者報告数 58.54）となりました。罹患数の累積は4万7千人あまりと前のシーズンの2倍以上となり、過去5年間で最も大きな流行となりました。

【インフルエンザの流行タイプの移り変わり】

インフルエンザには流行があることはよく知られていることです。2003/2004シーズンに当所ではかぜ様患者の病原体検査（集団かぜ調査・病原体定点で採取）を行ったところ、インフルエンザウイルスA香港(H3)型が174株、同B型が3株分離され、圧倒的にA香港(H3)型が優位でした。それに対し、大流行となった昨シーズン（2004/2005）はシーズンをとおしてA香港(H3)型とB型が混在して分離される傾向が見られました。さて、今シーズンの流行はどうでしょうか？このことについては、過去6年間の神奈川県域のインフルエンザの分離比率について興味あるグラフがありますのでお示します。

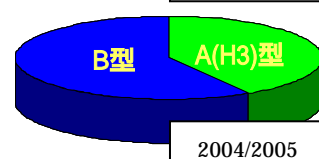
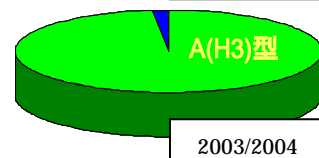
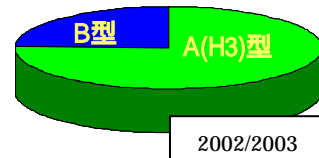
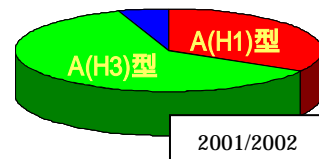
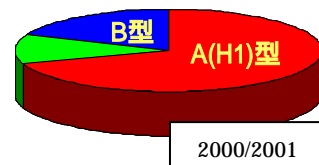
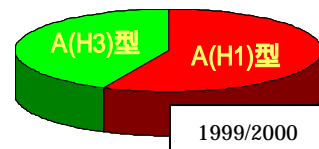
まず、1999/2000シーズンと2000/2001シーズンは、Aソ連(H1)型が圧倒的に多く、2000/2001シーズンは代わりにB型が増えてきています。ところが、2001/2002シーズンになると鳴りを潜めていたA香港(H3)型が勢力を盛り返し、形勢を逆転し、2002/2003シーズンにはAソ連(H1)型が押さえられ、ついにA香港(H3)型に占められる形となり、これが2003/2004シーズンまで続きました。B型は周期的に増減するものの大きな流行はみられませんでした。2004/2005シーズンにはついに大流行しました。

県民の抗体保有状況を調査することで流行予測・監視が行えるため、当所では厚生労働省の感染症予測事業の一つとしてインフルエンザ抗体保有状況調査を毎年実施しています。

詳しくは[神奈川県微生物検査情報第153号](#)（既刊）に掲載していますのでご覧ください。

【今年の流行タイプは？】

そこで、今シーズンですが、A香港(H3)型が流行の中心で、Aソ連(H1)型とともに主流を占めると予測されています。また、今冬のインフルエンザは流行の出足が過去5年間で最も



早いことが国立感染症研究所がまとめている全国約5千の医療機関の定点調査でわかっており、ペースは、大流行といわれた昨シーズンより1カ月ほど早く、過去11年でも3番目であるそうです。流行の出足が早いと、患者数が急激に増える傾向にあることが知られており、当所でも毎週インフルエンザ情報をホームページに掲載し、注意を呼びかけていますのでご覧下さい。

【インフルエンザは電車に乗ってやってくる？】

当所では、一昨年から県境地域の保健所と連携し感染症情報の共有化を試みています。東京都の八王子・南多摩・町田保健所と神奈川県津久井・相模原・大和保健所の6保健所間でインフルエンザをはじめとした7種類の感染症を対象疾患に選び、毎週リアルタイムな情報交換をしています。この地域は東京都内のベッドタウン的な特徴を持ち、中央線、横浜線、京王線などの交通網で相互に人の行き来のある地域です。ここでインフルエンザに注目してみると面白い現象がみられました。すなわち、東京都の3保健所で注意報が出てから1週間後に神奈川県の保健所で注意報が出て、東京都の3保健所で警報が出てから1週間後に神奈川県の保健所で警報が出るといったことです。これから交通網を介した人の流れによってインフルエンザの伝播があることが推測されました。これは県境の地区に限ってのことですが、今後、横浜市、川崎市を含めたインフルエンザの広がりを検討することにより、全県のインフルエンザ流行の伝播が把握できるようになるものと推測されます。

(企画情報部)

表1 ヒト由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年11月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	324	387	456	914	294	162	255	183	122	254	92	3443	10	3453
海外渡航者数														
病原血清型大腸菌													1	1
サルモネラ O9群			2									2		2
カンピロバクター ジェジュニー	1		6		1							8		8
A群溶血性レンサ球菌													1	1
マイコプラズマ ニューモニエ													1	1

ヒト由来の検体3453件を検査した。

定点医療機関より依頼のあった感染性胃腸炎患者便4件について検査したところ、病原大腸菌1件(血清型O18 stx遺伝子非保有)が検出された。

藤沢保健所の有症苦情集団発生事例で、患者便からサルモネラO9群(血清型 Enteritidis)が2件検出された。

平塚保健所および茅ヶ崎保健所の同一施設に起因する食中毒関連調査で、カンピロバクター ジェジュニーがそれぞれ1件検出された。

藤沢保健所の食中毒集団発生事例で、従業員並びに患者便からカンピロバクター ジェジュニーが6件検出された。

定点医療機関より依頼のあったA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者検体から、A群溶血性レンサ球菌(血清型T4)が1件検出された。

県内病院から依頼のあった咽頭ぬぐい液からマイコプラズマ ニューモニエが1件検出された。

表2 食品由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年11月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数	7	22	21	63	5			7	9	22	10	166	15	181

食品由来の検体181件を検査したところ病原菌は検出されなかった。

表3 環境由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) 平成17年11月

	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所	小計	衛生研究所	合計
取り扱い検査件数			35	27			2		10			74	30	104
サルモネラ O4群													1	1
サルモネラ O7群													2	2
サルモネラ O9群													1	1
サルモネラ 型別不能													1	1
O1&O139以外コレラ菌													2	2
レジオネラ ニューモフィラ 1群							4					4		4
レジオネラ ニューモフィラ 4群							2					2		2
レジオネラ ニューモフィラ 型別不能							3					3		3

県内定点10カ所の河川水腸管系病原菌調査を行ったところ、O1&O139以外のコレラ菌2件、サルモネラO4群(型別不能)、サルモネラO7群2件(血清型Infantis)、サルモネラO9群(型別不能)サルモネラ群別不能が検出された。

秦野保健所で2件の浴槽水検査を行ったところ、レジオネラ ニューモフィラが9件検出された。血清型は1群、4群、型別不能の3種類が各浴槽に混在していた。

表4 ウイルス検出状況(月別)－平成16年11月～平成17年11月

疾患名 検出ウイルス	平成16年		平成16年計	平成17年												平成17年累計
	1月	2月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		
インフルエンザ AH3			159	14	47	13										74
インフルエンザ B			3	21	75	9										105
パラインフルエンザ 3			1													
R S	1	2	3												1	1
ポリオ 3								1								1
コクサッキー A2			3													
コクサッキー A4			5							1						1
コクサッキー A5											1					1
コクサッキー A6			3					2	9	9						20
コクサッキー A9			1										1			1
コクサッキー A10									1							1
コクサッキー A12			1													
コクサッキー A16	2		9	1					4	3		4				12
コクサッキー B1			2													
コクサッキー B3										1						1
コクサッキー B4			1													
コクサッキー B5		1	2													
エコー 3									2	1						3
エコー 6			1						2							2
エコー 18			7													
エンテロ 71								1								1
パレコー 1													1			1
ムンプス			1					5	10	2			2	1		20
アデノ 2			1	1				1	1	1						4
アデノ 3	1	2	9	3					1		1		1	1		7
アデノ 4					1											1
アデノ 5								1								1
アデノ 40/41			1												2	2
単純ヘルペス 1				1					1				2			4
ロ タ			3		1	12	1	12								26
ノ ロ	6	180	332	101	21	23	2	17	7				1	21		193
サ ボ								31								31
未 同 定			3			1			1	7	8			2		19
柯エンチア ツガムシ													1	12		13
合 計	10	185	551	140	146	59	3	71	39	25	10	4	9	40		546

表5 ウイルス検出状況（疾患別） - 平成17年11月

疾患名 検出ウイルス	ウエストナイル熱	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	除麻しん（成人麻しんをく）	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	食中毒	その他	合計
取り扱い検査件数		19			1	1	13	2			1			32	5	74
R S					1											1
ムンプス											1					1
アデノ 3															1	1
アデノ 40 / 41							2									2
ノロ							4							17		21
オリエンチア ツツガムシ		12														12

11月分コメント

集団発生

- ・平成17年11月、県域で食中毒様事例が4例あり、患者便15検体中13検体および従事者便16検体中3検体からノロウイルスが検出された。
- ・感染性胃腸炎の集団発生は1事例あり、患者および従事者便11検体中4検体からノロウイルスが検出された。

県域外発生関連調査

- ・他の自治体から依頼のあった食中毒様1事例の患者便1検体からノロウイルスが検出された

発生動向調査の病原体検査定点からの依頼によるもの

- ・RSウイルス感染症が疑われた患者の咽頭拭い液1検体を検査したところ、遺伝子検出法によりRSウイルス遺伝子が検出された。
- ・感染性胃腸炎患者2名からアデノウイルス40 / 41型が検出された。
- ・流行性耳下腺炎患者の咽頭拭い液1検体を検査したところ、ムンプスウイルスが分離された。
- ・その他、アデノウイルス感染が疑われた口内炎、結膜炎症状を呈する患者の咽頭拭い液1検体を検査したところ、アデノウイルス3型が分離された。

発生動向調査の病原体検査定点以外からの依頼によるもの

- ・足柄上、秦野および小田原保健所管内の医療機関から依頼のあったつつが虫病を疑われた患者19名中12名から、遺伝子検出法によりオリエンチア ツツガムシ遺伝子が検出された。